

# 令和4年度 山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

特定非営利活動法人にじいろのスイミー  
事務局長 三枝里実

## 子どもを真ん中に『みんなで協育』

～地域の連携を生かして～

### 昭和平成令和…時代は変わり地域も子育てスタイルも変化

サザエさんの家族のような昭和。お父さんは働きに、おじいちゃんおばあちゃんは畑に、お母さんは家事をしながら畑も手伝う。都留市もそんな家庭が多かった

そして平成令和の時代。パパもママも会社勤めの夫婦共働き世帯に。家族形態は核家族・少子化

困ったとき家族親戚や地域で助け合うことが当たり前。お祝い事も地域みんなで集まるだから近所が大事！昔は学校から帰ると近所のお兄さんお姉さんともよく遊んだ

会社での時間が長くなり、近所の友より会社の仲間との時間がより密になっていった  
その一方で、大人自身の地域を大切に思う気持ちが薄れていく時代に

時代とともに国の子育て支援政策もしだいに変化。放課後児童クラブ（学童保育）も重要となり整備が図られるように

6

時代の移り変わりから家族スタイル・ライフスタイルも変化。国全体で重要視されるようになった子育て支援政策。都留市放課後児童クラブ(学童保育)もすべての小学校区に整備されました。

### 法や制度だけの組織でいいの？

～私は旭の地域住民ではないが、平成22年より旭小の学童保育支援員として勤務～  
子どもの成長を間近で見られることの楽しみを日々感じながら今日まで至る

経験から感じたことは

私ひとりの力は無力。  
地域の皆さんに「地域の子ども」を育ててもらうために  
指導員自らも進んで地域に溶け込まなければ！

### これが連携の第一歩

7

まずは支援員自ら『地域を知る』ことから始まりました。そして、子どもたちと一緒にチャレンジしたことは…

## 『ここに地域の子どもがいます』

放課後の「生活」を行う学童。学童が開設されてから毎日子どもたちの元気な声が賑やかに響くようになった

さらに

旭で開始された放課後子ども教室『旭こども教室』に  
**全員で登録!!参加!!**

子ども教室は学童のこどもたちにとって楽しみの時間

旭こども教室は地域のおじさんやおばさんたちが指導員となり  
自然体験ものづくり体験、地域の伝承行事などさまざまな活動を子どもたち  
のために行ってくれている  
おかげで子どもたちは地域の方々とも顔なじみに!!

8

時代は変わっても放課後は子どもたちにとって楽しみの時間です。とはいっても核家族が主流の今の時代。下校後カツオくんたちのように空き地での野球や、お友達の家みんなで集まって…といったことは難しく…。そのかわりに、放課後を楽しく安全に過ごせる場が『放課後児童クラブ(学童)』また『放課後子ども教室』です。

### ここでいったん違いをご説明…

放課後児童クラブ(学童)とは	放課後子ども教室とは
厚生労働省の管轄で、保護者の就労 疾病等により放課後の家庭において 健全な育成を受けられない小学生を 対象に、 <b>日常生活や遊びの場を提 供することを目的とする事業</b>	文部科学省の管轄で、保護者の就労 状況に関わらず児童の放課後や休業 中の子どもの安全安心な居場所を確 保し、 <b>地域の方々の参画を得て、学 習活動やスポーツ、文化芸術活動、 地域の伝承活動等を実施する事業</b>
利用児童は登録すると週3日からほぼ 毎日、下校時から保護者がお迎えの 18時30分ごろまで利用	都留市の場合、6地区にて実施 登録児童は活動に合わせて参加

9

### 旭こども教室のイメージ図

旭では放課後子ども教室に学童全員で参加させてもらっているおかげで、地域の皆さんと子どもたちのつながりが持てるようになりました。学童支援員も子どもたちと一緒に活動に参加し市のコーディネーターが円滑に活動を進められるよう保護者への周知などお手伝いをしています

学童の子どもにとっ  
て子ども教室はさま  
ざまな体験のできる  
楽しい時間

学童支援員にとっても  
学び多き感謝の時間

学校は活動場所の提供な  
ど、縁の下の力持ち

放課後子ども教室の指導員である地域のおじさんおばさんにとっ  
て、活動は地域の子どもに生き生きとかわれる楽しい時間

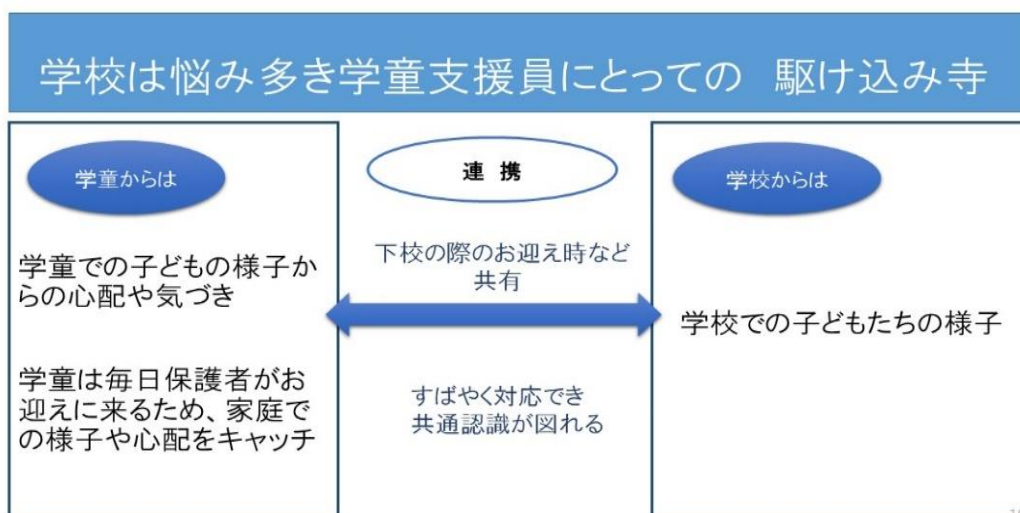
旭こども教室は地域みんなが元気に楽しく過ごせる  
時間。ここにはいつも『ありがとう』と『がんばったね』  
があふれています

毎回楽しむ子  
どもの姿に保  
護者も感謝

活動を組み立ててくれる市のコーディネータ  
ーさんのおかげで活動はスムーズに

## 地域との結びつき その② 旭小学校

旭小学校と学童の関係は？



子どもたちの情報共有は子どもを理解する上で最も重要だと常々感じています。そのためにその日にあった出来事はなるべく早く旭小学校と共有し、学校の先生方との連携を図っています。一日一日子どもの様子は変化します。その中で『これは！』と思うことや『なぜ？』と感じたことは日ごろから学校学童で伝えあい、翌日のかかわりに生かされるよう努めています。

## 地域との結びつき その③ 都留文科大学

大学生は子どもたちの憧れ…

都留文科大学の大きな力

学生アルバイト

放課後子ども教室  
での交流

大学の先生による  
支援員研修の実施

現在は授業の一環で行われている教育フィールド研究Ⅰとしての活動をおこなっている

子どもにグッと寄り添いかかわってくれる学生さんを子どもたちは大好き  
『子どもを知りたい』学生さんにとっても楽しみながら学んでもらえる場となっている

都留文科大学との連携は都留市学童保育が開設された時から長きにわたり、ボランティア活動、アルバイトとして助けていただいています。近年は、大学生の学びにつながる活動として市内すべての学童がお役に立てるようになりました。おかげで子どもたちもそして来てくださる学生の皆さんも有意義な時間をすごせています。

学童には、学年も体格も違う子どもたちが沢山いて、元気な姿、作業に熱中している姿が印象的だった。私が話しかける前に子どもたちの方から声をかけてくれて、輪に入り込むことができるとてもうれしかった。しかし大変なこともあった。なかなか片付けができない子がいたり宿題が終わっていないのに遊び始める子がいたり一人一人性格も感じていることも違う中で注意するのは大変だった。

『2021 年度教育フィールド研究Ⅰ 参加学生の振り返りより』

これらのしくみをすべて紐解くと…

実はすべて「連携」で成り立つ

放課後児童クラブ(学童) 都留市健康子育て課  
放課後子ども教室 都留市生涯学習課  
学 校 都留市学校教育課  
都留文科大学教職支援センター  
他にも、長寿介護課、社会福祉協議会  
などなど…

12

すべての連携のもとに生まれる想い

『ありがとう』『おかげさま』『感謝』

保護者

だから

学校

だから

行政

だから

学童

だから

ではなく  
地域の子どもたちは地域で育てる  
これが『連携』



連携の力で育てられている「心」

放課後の遊びの中で育つ横の繋がり  
家族ではない地域の皆さんとの交流から育つ安心感や信頼性

『ここにはいつも自分を受け止めてくれる大人がいる』

気づけばここが

子どもたちの学びのある居場所

13



# 10年目の集大成

2019年盛里地域高齢者のつどいで



旭小学童保育がスタートして  
ちょうど10年目の年に、地域の  
高齢者のつどいで感謝の気持ち  
を伝えようということから『パブリ  
カ』を披露しました。現役学童っ  
子だけでなく、学童OBOGの中  
学生高校生までもがロコミで集  
まってくれました。地域みんなが  
ひとつになれた瞬間でした。  
(これは練習風景の写真です)

子どもたちのために、いつの時代にも地域社会がひとつとなり、組織としくみで人の心をつなぎ、広がっていくことが重要だと感じています。

## 時代は動いています

だからこそ、現状で満足せず、時代に合わせた形を模索し学び続けていくことが必要不可欠である

子どもを真ん中に、行政はじめ地域社会、学校がひとつとなり  
組織としくみで心のつながりや広がりを持てることが重要だと感じる

15

これから先の人生100年時代の社会において、大切なことは子どもだけでなく大人自身も豊かな人生を送れること。そのためにも子育ては地域との連携が必要だと考えます。子どもが楽しく豊かに育ち、地域の大人も一緒に生きがいをもって本気で楽しめる居場所づくり。みんなで子どもの育ちを見守り、地域の誰もが必要とされる豊かな地域社会づくりをめざして、次世代へつないでいくことが重要ではないでしょうか。

## 次の担い手の育成へ

令和4年度4月1日より都留市放課後児童クラブは  
NPO法人にじいろのスイミーとして  
スタート

16

本年度より、都留市にある8学区10施設の学童保育がNPO法人にじいろのスイミーとしてひとつの組織となりました。

まさに『組織としくみで人の心をつなぐ挑戦』のはじまりです

## これまでの都留市放課後児童クラブ(学童)

8学区それぞれの地域にて保護者、地域が運営を担う公設民営スタイルだった

どの地域も開設当初は『学童を必要とする保護者』が主体となり運営を行っていた

それぞれの地域の良さや保護者の想いを生かしながらの運営だった

17

開設当初は『子どもたちのために学童保育は地域に必要。みんなで協力して立ち上げよう!』という保護者の熱い思いがひとつになり、それぞれの地域で精力的に会の運営に取り組んできました。しかし、時代は変わり保護者も日々忙しく運営にかかわることに無理が生じるようになりました。学童を自ら運営というよりも『子どもを預けるための場』という(当たり前ですが)感覚に変わっていきます。

## 時代と共に見えてきた課題…

### 学童を運営する保護者の負担が増大

え？お金を払って預けるのに運営？

支援員の雇用？  
しかもお給料の管理まで？

行事も保護者が？

必要だから預けたいのに  
こんなことなら学童に預けない！！

子どもたちの居場所としての質の低下につながっていった

19

#### 各地区での保護者会運営のむずかしさ

補助金、保育料といった大きなお金の毎月の管理  
子どもたちにかかる毎月の経費管理  
支援員の雇用、給与計算、支払  
決算予算等提出書類の準備  
行事など子どもの育ちへの支援、指導において各地区ごとに差がうまれる  
同じ都留市内の学童保育でありながら共有不足

#### 保護者の負担を減らすために

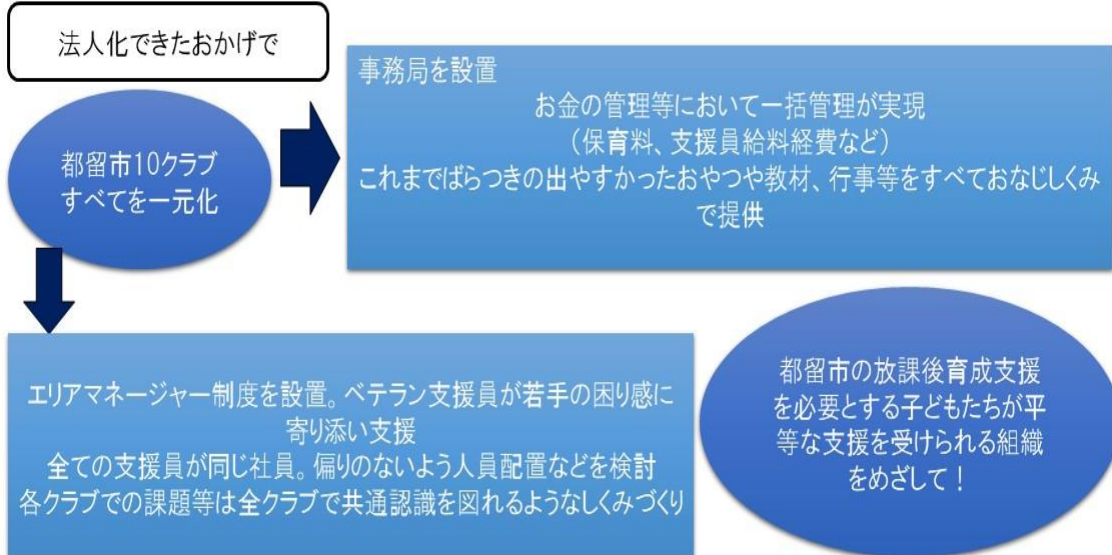
支援員が経理事務を担う  
雇用は支援員が管理  
決算予算まで支援員が行う  
このようなことを試みた結果  
**雇い主である保護者と支援員の立場が逆転！**  
**本来の仕事である育成支援にも弊害が生じ始めた**

地域保護者との信頼関係の確立への懸念が生まれてしまう事態に

これではいけない！と、設置者である都留市と協議に協議を重ね、  
8地区の学童保育を一元化し保護者の負担感を取り除こうという方向へ

## 課題解消のためにNPO法人化へ!!

これまでの長年の課題解消のためにこれからの都留市を担う子どもたちのために  
小侯政英理事長はじめ、理事の皆さんが立ち上がってくれた!!



20

私たちの法人は、これまでの8地区での学童保育それぞれで先人が築いてくださった学童保育を継承しながら、時間のニーズに合わせ改善し誕生した法人です。地域の良さや想いをできる限り継ぎながら、ひとつの新しい組織としてスタートをきりました。ここまで非常に難しく、準備期間は都留市とともに言葉にはできないほどの苦労の連続でした。しかし、この苦労が10年20年前に各地域で学童を立ち上げてくださった皆さんの想いと同一ように、これから先の都留市の子どもたちの輝かしい未来へとつながっていけることを心から願い進んでいきたいと考えています。

## まだまだ試行錯誤しながらではありますが



これまでの歴史で培った地域連携のノウハウを生かし設置者である都留市とともに、子どもたち、保護者のために一歩一歩進んでいきたいと考えています  
ここが自分の育った場所、そんな想いを大切にしてくれる大人に育ってくださることを願っています

20

子どもを真ん中に据え  
地域の人が力を合わせて子どもたちの輝かしい未来のために!!